

政策評価シート【総括票】

施策の柱 **1-3 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る**

基本方針 **低炭素社会・循環型社会の現実を目指して、地球温暖化対策や3Rの推進、良好な生活環境の確保などを進めます。**

担当局 (区) **環境局**

評価区分 **C 政策の目的達成に向け順調に成果が現われている**

【評価の理由・説明】
 「市内の空気や川などの水はきれいだと感じる」は、中間目標値は超えなかったものの、前回時より4.3ポイント上昇した。客観指標「大気環境目標値達成項目の割合」や「水質環境目標値達成項目の割合」に示されるとおり、これまでの大気汚染対策や水質汚濁対策の効果が着実に表れていることが要因と考えられる。
 また、「日頃、ごみの量を減らすことや、リサイクルに取り組んでいる」は、前回とほぼ同程度の結果となったが、客観指標「市民1人1日あたりのごみ排出量」ではごみ排出量が着実に減っており、「ごみの再生利用率」も前回時より1.7ポイント増と、市民の意識は確実に高まっており、それが実績に繋がっている状況である。
 一方、「日頃、省エネルギーに取り組んでいる」、「この1年間に、美化・環境保全活動をしたことがある」は、前回時よりもポイントが下がった。「日頃、省エネルギーに取り組んでいる」は、平成23年3月に発生した東日本大震災やこれに伴う原子力発電所の事故により電力の安定供給が懸念され、省エネルギーに取り組む機運が高まったが、震災から3年が経過し、その懸念が低くなったことから、国の設備認定を受けている太陽光発電設備のうち、実際に稼働している設備は3割程度(26年度末)しか至らず、省エネルギーに対する意識も低下したものと考えられる。「この1年間に、美化・環境保全活動をしたことがある」は、「美しい街づくりに係る活動支援」や「環境学習モデル校事業」を通して美化活動や環境保全活動の活性化を図ってきたが、幅広く市民に浸透しなかったものと考えられる。

【今後の取組みの方向性】
 低炭素社会・循環型社会の実現を目指し、この3年間様々な取組みを実施しており、客観指標を見ると比較的順調に進んでいるが、生活実感・行動指標の値はそれほど伸びていない。
 「市内の空気や川などの水はきれいだと感じる」については、市民の関心が高い光化学スモッグの原因となる大気中の酸化性物質の総称である光化学オキシダントやPM2.5などが環境目標値未達成の状況であることが一因と考えられるため、現行の施策を継続するとともに、国等の検討状況を注視しつつ、第2次実施計画事業である「大気環境測定の推進」などを着実に推進していく必要がある。
 「日頃、ごみの量を減らすことや、リサイクルに取り組んでいる」は、ごみ減量や再資源化を推進する各種施策があるものの、その取組みが十分利用されていないため、積極的に住民説明会等の広報等を行いつつ、第2次実施計画事業である「古紙・布類の資源化拡充」なども推進していく必要がある。
 「日頃、省エネルギーに取り組んでいる」と「この1年間に、美化・環境保全活動をしたことがある」については、「環境フェスティバル」など様々な機会を捉え、市民一人ひとりの関心と意識の向上を図っていく。

評価区分の基準(指標の達成状況の平均点数)
 A:4.5点以上、B:3.0点以上4.5点未満、C:1.5点以上3.0点未満、D:0点以上1.5点未満、E:0点未満

生活実感・行動指標

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
14	日頃、省エネルギーに取り組んでいる	67.0	72.0	76.0	80.0	56.3			×	-1
17	日頃、ごみの量を減らすことや、リサイクルに取り組んでいる	69.7	74.0	77.5	80.0	69.9			△	1
20	市内の空気や川などの水はきれいだと感じる	23.0	29.0	35.0	40.0	27.3			○	3
25	この1年間に、美化・環境保全活動をしたことがある	22.5	25.0	27.5	30.0	21.0			×	-1

客観指標

指標No.	指標名(単位)	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
15	温室効果ガス排出量削減率(%)	5	—	平成27年度に 目標値設定	平成27年度に 目標値設定	2				
16	再生可能エネルギー等の導入量(兆ワット)	148	336	518	700	205			△	1
18	市民1人1日あたりのごみ排出量(g/人・日)	1094	1047	1045	1043	1051			○	3
19	ごみの再生利用率(%)	32	33.8	34.6	35	33.7			○	3
21	大気環境目標値達成項目の割合(平成23年度達成4項目)(%)	100	現状維持 (100)	現状維持 (100)	現状維持 (100)	100			◎	5
22	大気環境目標値達成項目の割合(平成23年度未達成3項目)(%)	0	—	33.3	66.6	33.3				
23	水質環境目標値達成項目の割合(平成23年度達成31項目)(%)	100	現状維持 (100)	現状維持 (100)	現状維持 (100)	100			◎	5
24	水質環境目標値達成項目の割合(平成23年度未達成5項目)(%)	0	20	—	40	20			◎	5
4	谷津田の保全活動等の参加者数(人)	409	440	470	500	519			◎	5

平均点 **2.6**

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況(事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など)
	達成	未達成	
1-3-1	12	10	「下水道施設の地球温暖化対策」や「公共施設への太陽光発電設備の推進」など公共施設への取組みは概ね計画どおり進んだが、市民向けの「太陽熱利用給湯システム設置助成の推進」や、事業者向けの「地球温暖化対策の推進」などの施策については、引き続き周知や働きかけが必要。震災から3年が経過し省エネに取り組む機運が薄くなり、市内家庭における温室効果ガス排出量は増加傾向。
1-3-2	12	18	「3R教育・学習の推進」は計画どおり進んだが、「ごみ減量・再資源化の推進」は一部制度の拡充を行ったものの目標達成には至らなかった。平成26年2月から家庭ごみ手数料徴収制度を開始し、26年度の焼却ごみが25万531トンとなり、16年度比で焼却ごみを約3分の1減らし25万4千トンにする目標を達成した。
1-3-3	18	7	「大気環境測定の充実」や「水質汚濁対策事業」、「生活排水対策事業」、「川や海の水質保全」は計画どおり進んだ。
1-3-4	6	3	「環境学習・環境教育の推進」や「美しい街づくりに係る活動支援」は順調に進んだ。「地域環境保全自主活動事業補助金」等は引き続き啓発が必要。